

学生ボランティア体験

[はじめに]

栄養クリニック開設の目的のひとつとして、「実践力のある管理栄養士養成のために、在学生在が様々なイベントに参加して、管理栄養士としての資質の向上を図る」ことがある。大学の正規のカリキュラムの中では、管理栄養士に必要な知識やスキルが新ガイドランに沿って学習できるが、社会性や生活感の弱い学生が、卒業後に即、社会のニーズに応じた実践力を備え、職場の要望に応えられるようになるには、体験学習の中で培われた様々な状況に対応できる応用能力が必要である。しかし、管理栄養士の多くの養成施設は、実際に研修する場を持たないのが現状である。また、生活状況が多様化した現代社会では、特定の個人や多くの人々がおかれている状況を共有化できる管理栄養士が求められており、自分の考えによる一方的な指導ではなく、相手のおかれている状況や人生観などを共有し、真の課題を見つけ、解決する能力を身につけていかなければならない。ヒューマニズムや倫理観、そしてどんな方とも初対面から気持ちよく応対ができるコミュニケーション力が求められる。一般の方が健康や栄養に対してどのような考えを持っているか、食材に対する季節感、経済性や個人の嗜好性などが理解できていないと支援はできない。栄養クリニックで開催される様々な事業では、実際に管理栄養士が一般の方へ情報発信する姿を見ることができる。これらに学生ボランティアとして参加することで、どのような伝え方をすれば伝わりやすいのか、どのような情報に一般の方は興味を示すのかなど、常に、対象者側に立った目線での食事指導や栄養指導ができるキャリアを身につけて欲しいと願う。

当栄養クリニックでは、食物栄養学科2～4回生が学生ボランティアとして各種行事に参加している。本年度の学生ボランティア登録者数は34名、栄養クリニック事業参加延べ人数は1,129名であり、その内訳は、料理教室・学習会40名、食 with プロジェクト2名、附小スクールランチ1,000名、大学祭24名、東山区地域連携事業・高齢者の骨密度測定と栄養相談50名、中信ビジネスフェア6名、東日本大震災の被災者に対する栄養管理プロジェクト7名であった。

以下に、学生ボランティアの体験記の一部を紹介する。

[学生ボランティアの活動概要]

料理教室・学習会

参加する学生は、各自の役割をよく理解しており、実習の準備から片付けまで積極的に引き受けており、大変な作業が多いにもかかわらず、楽しんで参加している。当栄養クリニックの事業は一般の方を対象としており、参加者の年代・性別・食経験や調理技術も様々であるため、一人一人に合った対応で、全員が気持ちよく実習に参加できるような配慮が求められる。学生は参加者との会話や調理補助などを通して、コミュニケーション能力の向上を図っている。

初めてボランティアに参加した学生からは、「大変な操作（みじん切り等）が多かったのに、利用者みなさんは慣れていらっしゃるって、自分はまだまだだと実感しました。」「たくさんのお話を学ばせていただきました。マシュマロでカスタードクリームができることや、おもてなし料理でのテーブルコーディネートについてなど本当に勉強になりました。」「私はコミュニケーションをとることが苦手なのですが、少しだけ地域の方々ともお話することができました。」といった感想が寄せられ、それぞれが自らの課題を発見し成長しようとしていることが何よりも嬉しく思う。

また、本年度より取り入れた学習会は、ボランティアにきた学生にも好評であり「ロコモティブシンドロームについてのミニ講義は自分自身も勉強になりました。」「普段授業で習っていることが話の中で活かされ、実践の場で役に立つことが分かりました。もっといろいろ勉強して学んでいきたいと思いました。」と自身の学習意欲の向上にも繋がったようであった。

当栄養クリニックの事業への参加は、学生にとってコミュニケーション力の向上に加えて、食に関する知識の習得や調理技術向上の上でも学びの場となっているようである。また、栄養クリニックのボランティアという場を活用して、日頃の学びへの理解を深めていって欲しい。さらに将来、栄養クリニックでの経験が管理栄養士として就職した際の糧になることを願う。



料理教室で参加者のサポートをする学生ボランティアの様子

その他イベント

今年度も、中信ビジネスフェア2016や大学祭における栄養アセスメントの他、東山区地域連携事業・高齢者の骨密度測定と栄養相談にも多くの学生が事業に参加してくれた。

これらのイベントは、業務時間が長く、体力を要するものであるが、参加した学生は疲れた様子も見せず、皆精一杯取り組んでいる。各自、担当の業務に責任をもって取り組み、状況に応じた臨機応変な対応もよくできている。どの学生も、最後まで笑顔で丁寧な対応ができており、来場者も大変喜んでおられた。



大学祭の栄養アセスメントの様子

学生からは、「毎年アセスメントの補助に参加するのを楽しみにしています。」「正しく測定するのは難しい」等のコメントが寄せられており、一般の方と接する機会を楽しみにする学生や、実践することの難しさを感じている学生も見受けられた。今後も、学生の実践教育の場としての可能性を広げていきたい。

(落合さゆみ)